

6年国語 一枚指導案集 「海のいのち」立松和平作

④場面「太一は～ブリになったりした。」

本時の目標

- ・与吉じいさのもとで一から一本つりの漁について教わっていく太一の様子を読み取る。
- ・与吉じいさの「干びきに一ひき」という語りの中にこめられた考え方について自分なりの理解を
するとともに、与吉じいさの漁の中で変わるものと変わらないものを考える。

発問・指示等	児童の応答予想	教師の組織と対応(タクト)
<p>・④場面を読んでください</p> <p>与吉じいさはどんな一本釣り漁師でしたか。</p> <p>太一もすぐにつり糸をにぎらせてもらえましたか。</p> <p>どんな仕事をさせてもらいましたか。</p> <p>つりをしながら与吉じいさはどんな話を語ってくれましたか。</p> <p>これは独り言ですか。</p> <p>なぜ独り言のように語ったの。</p> <p>「干びきに一ひき」という言葉にはどんな考えが含まれてるの。</p>	<p>③場面のときよりも立つ児童が増えている(ことを期待したい)。 指名された児童が音読(2～3名)</p> <p>うでのいい漁師だった 手際よく準備を進めることができる。 いきなり大物のタイを釣り上げることができる。</p> <p>なかなかつり糸をにぎらせてもらえなかった。 つり糸にえさをつける仕事。 上がってきた魚からつり針を外す仕事。</p> <p>「干びきに1ひきでいいんだ。 干びきいるうち1ひきをつれば、 ずっとこの海で生きていけるよ。」 独り言のようにと書いてあるから独り言ではない。 聞かせてくれたと書いてあるから、 太一のために語っている。 教えとしておしつけるのではなく 感じ取ってほしいことだった。 とても大切なことだから自分で考えられるようにした。</p> <p>たくさんいるからといってその全部をとるのではなく、少なくとも必要な最小限にすればいいということ。 少しでもたくさんとりたいと考えてつっていくと海の魚が減っていつてしまうのだということ。</p>	<p>・自分から音読にチャレンジしようとする姿勢を評価する。(1.4.5班に期待)</p> <p>・やる気を感じる具体的な評価をしながら指名するように心がける。</p> <p>・前時の音読時と絡めて前向きな姿勢がいっそう感じられるようになった部分を見つけて評価していきたい。</p> <p>・つまらない仕事のように子どもたちは感じるかも知れない。</p> <p>・どうしてこの仕事しかさせてもらえなかったかを考えながら実は大切な仕事であることにも気づかせたい。</p> <p>・この部分は子どもたちがすぐに気づくには難解な気がする。</p> <p>・比較しながら考えさせてみる。 A:師匠が弟子に語るような語り方 大切な教えを伝えていく時の語り方 B:独り言のような語り方 さり気なく太一にも聞こえるような語り方</p> <p>・子どもたちなりの表現で発言してくれたことを板書に残していくように心がける。</p> <p>・言葉足らずな部分については子どもたちの中で補い合わせていく。</p>

発問・指示等	児童の応答予想	教師の組織と対応(タクト)
<p>実際与吉じいさは、どうしたら道具を片づけましたか。</p> <p>季節が変わると何か変わることがありましたか。</p> <p>季節が変わっても変わらないことはありますか。</p> <p>⑤場面の予告 弟子になって～帰っていったのだ。</p>	<p>ずっとこの海で生きていくためには必要以上に魚をとりすぎないほうが良いということ。</p> <p>毎日タイを20ぴきとると、もう道具を片づけた。</p> <p>もっととろうと思えば取れるけど…漁としては多い数ではないけど…これが千びきのうちのーひきのこと</p> <p>タイがイサキになったりブリになったりした。</p> <p>とれる魚の種類が変わっていった。</p> <p>20ぴきとれたらもう道具を片づけて漁を終えるところは変わらなかった。「千びきにーひき」という与吉じいさが語った通りの漁は変わらなかった。</p>	<p>• とれるだけたくさんとったほうがもうかっていい暮らしができるようになるんじゃない?というゆさぶりを入れることも考えておく。</p> <p>• 「もう」という表現からどんなことがわかるのかを聞き返していく。</p> <p>• 子どもたちなりの表現で与吉じいさの語ってくれた言葉がそのまま現された行動であることを発言してほしい。</p>